

単元デザイン FIRST STEP —小学校外国語科—

1 単元デザインは何のため?

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元(複数単元)の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 単元デザインの手順と各段階のポイント

※単元ゴールから逆向き設計(バックワードデザイン)で、1時間ごとの授業につながりをもたせながら単元をデザインします。

単元デザインの手順に沿って、各段階のポイントを押さえているか□に✓を付けて確認しましょう。

※「逆向き設計(バックワードデザイン)」…目指す児童の姿をゴールとして、必要な題材や言語活動を考え、単元を組み立てる考え方。

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

- 学習指導要領の目標や内容、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編を踏まえている。
- 児童の実態や前単元までの学習状況を踏まえている。
- 「*CAN-DO リスト」に基づいている。
- ※ 「CAN-DO リスト」…学習到達目標を「~することができる」の能力記述文で書き表し、五つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[発表]」「話すこと[やり取り]」「書くこと」)ごとにリスト化されたもの。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確である。
- 相手意識をもち、コミュニケーションの楽しさを実感できる活動を設定している。

③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、単元の評価基準(ルーブリック)を設定します。

- 観点別に目指す児童の姿を具体的に考えている。

④ 単元ゴールの言語活動に向けた*ステップアップの言語活動を各時間に設定します。

- 言語材料について理解したり練習したりするための指導(チャンツやゲームなど)とは区別している。
- ※ 「ステップアップの言語活動」…単元ゴールの言語活動に向けて、児童がステップアップしていくように設定された各時間の言語活動のこと。

⑤ 各時間に行う言語活動等を配列し、指導と評価の計画を作成します。

- 単元の1時間目から言語活動が授業の中心となるように設定している。

単元デザインの具体(例)

上記の手順を踏まえ、単元デザインの具体(例)を以下に示します。



① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

学習指導要領やその解説と照らし合わせながら、当該単元が年間計画のどこに位置付けられているかを確認します。「CAN-DO リスト」や取り扱う題材、言語材料、児童の実態などを踏まえ、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、単元の目標を設定します。

【具体例】 5年「身近な人について伝え合おう」

題材は、身近な人の紹介。

He/She について説明するのではなく、第三者を紹介する話を聞く活動を通して、児童が意味や使い方が理解できるようにしたいな。

「CAN-DO リスト」における目標は、「身近な人を知ってもらうために、名前や自分とのかわり、その人の性格や特徴などを伝え合えることができる」になっているな。

もっと詳しく知りたい、伝えたいと感じる伝え合いにして、内容や表現を深めていけるといいな。



単元を通して身に付けさせたい資質・能力

身近な人について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合う。

単元の目標

相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。また、伝えたことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

単元ゴールの言語活動は、授業づくりにおいて根幹をなす最も重要なものです。次の4つの視点を踏まえて、単元ゴールの言語活動を設定しましょう。

単元ゴールの言語活動を設定する4つの視点

- 伝え合う目的や必然性がある。
- 相手意識をもって取り組むことができる。
- 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- 伝え合うことの喜びや意義を見出すことができる。

身近な人について伝え合おう。

I 伝え合う目的や必然性 III 「本物」のコミュニケーション

IV 伝え合うことの喜びや意義

この人は誰だろう。Bさんの友達かな。

Who is this?

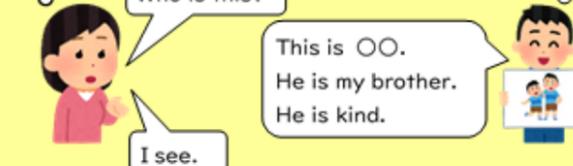
This is ○○.
He is my brother.
He is kind.

I see.

聞いてくれて嬉しいな。ぼくのお兄さんが優しいことを分かってもらえてよかった。

II 相手意識

Aさんは、兄弟がいるのかな。Aさんの身近な人について知りたいな。



直山 木綿子 監修 「小学校外国語教育の指導と評価」p.38を基に作成

上記の4つの視点を踏まえ、単元ゴールの言語活動を以下のように設定しました。

題材	内容
身近な人について伝え合おう。	相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて伝え合ったり、伝えたことについて書いたりする活動に取り組む。



③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、評価基準（ルーブリック）を設定します。

評価場面となる活動（単元ゴールの言語活動）に取り組む児童の姿を思い浮かべ、「おおむね満足できる」状況(b)と評価できる状況を具体的に文章に表します。その後、「十分満足できる」状況(a)と評価できる状況を検討し、記述します。さらに、その状況でどのような英語表現を用いているか具体的に英文に表します。

〔評価基準(ルーブリック)の例〕(4/5時)

	知識・技能
a	身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解し、簡単な語句や基本的な表現を正しく用いて、言いよどむことなく伝え合っている。
b	身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解し、簡単な語句や基本的な表現をおおむね正しく用いて、伝え合っている。
c	「b」を満たしていない。

※4/5時では、「話すこと[やり取り]」の知識・技能を評価します。思考・判断・表現は5/5時と併せて、主体的に学習に取り組む態度は5/5時に評価します。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力を評価するための言語活動や評価基準（ルーブリック）を明確に設定すると、単元を通して教師が指導すべきことも明確になります。また、妥当性、信頼性を備えた評価を行うために、児童の実態を踏まえた上で、学年の教師で話し合って作成し、共通理解を図ることが大切です。



④ 単元ゴールの言語活動に向けたステップアップの言語活動を各時間に設定します。

単元ゴールの言語活動に向けて、各時間にステップアップの言語活動を設定します。その際、「言語活動を通して」資質・能力を育成するという外国語科の目標を踏まえ、単元ゴールの言語活動に向けて、ステップアップの言語活動を塗り重ねていく「漆塗り型」での指導を展開することが大切です。

単元デザインの在り方

言語材料を身に付けるための練習後、目的や場面、状況などに合わせて活用するという順序立てて学習を積み上げていく「ブロック型」の指導展開

実際のコミュニケーションの中で言語材料を活用しながら単元ゴールの言語活動に向けて必要な力を身に付けていくことを目指す「漆塗り型」の指導展開

【これまでの外国語活動・外国語科のイメージ】



【「言語活動を通して」求められる資質・能力を育成する これからの外国語活動・外国語科のイメージ】



「令和4年度小学校における外国語教育指導者養成研修」(直山木綿子) 講義資料を基に作成

⑤ 各時間に行う言語活動等を配列し、指導と評価の計画を作成します。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力に迫るために、④で示した「漆塗り型」での指導展開を意識しながら、効果的に言語活動等を配列することが大切です。また、次に示す「指導と評価の計画を作成する際のポイント」を踏まえ、指導と評価の計画を作成しましょう。単元における評価場面の設定等については、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」及び「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。

指導と評価の計画を作成する際のポイント

- ① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。
- ② 単元を通して、単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返し行います。
- ③ 単元を通して、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。
- ④ 単元末に、単元ゴールの言語活動を設定します。
- ⑤ 単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

単元の指導と評価の計画(例)

①単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。

②単元を通して、単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返し行います。

③単元を通して、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。

④単元末に単元ゴールの言語活動を設定します。

⑤単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

時	目標・活動○	評価	
		知識・技能	思考・判断・表現
1	●人物の紹介を聞き、その人の性格や特徴などについて具体的な情報を聞き取ることができる。単元ゴールの活動への見通しをもつことができる。 ○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ●教師による人物紹介を聞き、その人物の性格を理解する。 【Let's Watch & Think】 ●単元ゴールの活動のモデルとなる映像資料を視聴し、具体的な情報を聞き取る。 ○単元ゴールの活動への見通しをもつ。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。	
3	●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わりを伝え合うことができる。 ○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ●挿絵を見ながら音声による会話を聞き、紹介している人を選択肢から選ぶ。 【Let's Play】 ●ある人物になったつもりで家族を紹介する。友達が誰になりましているのかを当てる。 【Let's Talk】 ●自分の身近な人の名前や自分との関わりを伝え合う。 【Let's Read & Write】 ●相手に伝えたことについて、例文を参考に文の一部を書く。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。	
4 (本時)	●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の性格や特徴などを伝え合うことができる。 ○Sound Chant を A から D まで言う。 ○Small Talk : 家族や友達 【Let's Listen】 ●音声による会話を聞いて、登場人物が紹介した人とその人の性格や特徴を線で結ぶ。 【Let's Play】 ●ボンボンゲーム: 性格や特徴を表す単語を聞いて指さす。さらに、He や She を付けて文型にして言う。 【Let's Talk】 ●自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、伝え合う。 【Let's Read & Write】 ●相手に伝えた自分の身近な人の性格や特徴などについて、例文を参考に書く。	本時では、「書くこと」については、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。	●自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 ●自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。(行動観察・ワークシート記述分析) ●「話すこと[やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。 ●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。(行動観察・ワークシート記述分析)
5	●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人について伝え合い、伝え合うことができる。 ○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Talk】 ●自分の身近な人について伝え合う。 ○自分の身近な人について伝え合う会話を聞き、具体的な内容を聞き取る。ともに、伝え合うときの工夫について考える。 【Let's Read & Write】 ●伝えたことについて例文を参考に書く。 ○単元の学習を振り返る。	本時では、「話すこと[やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。 ●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。(行動観察・ワークシート記述分析) ●相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書き技能を身に付けている。(行動観察・ワークシート記述分析)	

学習評価 FIRST STEP ー小学校外国語科ー

1 学習評価は何のため?

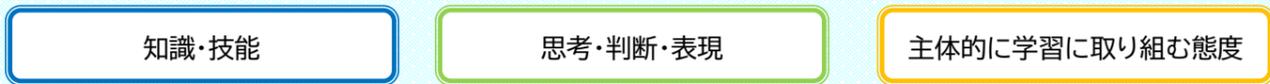
学習評価の目的は、児童の資質・能力を育成することです。児童の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の考え方

(1) 評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。



(2) 学習評価の枠組み

評価をする際は、3観点を五つの領域ごとに評価します。

3観点	五つの領域					観点別評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	a	b	a	a	b	A	2
思考・判断・表現	a	b	b	b	c	B	
主体的に学習に取り組む態度	a	b	b	b	b	B	

ポイント: 3観点×五つの領域の15マスの評価結果を基に、総括的に観点別の評価を行います。

3 3観点において評価すること

各観点において評価することは次のとおりです(・評価すること ★留意点)。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか ・[技能]実際のコミュニケーションにおいて、知識を正しく活用しているかどうか
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習した言語材料を活用し、各領域に示した方法で表現しているかどうか
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているかどうか ・言語活動へ粘り強く取り組み、自らの学習を調整しているかどうか ★言語活動で表出された態度で見取ることができます。 ★「思考・判断・表現」と一体的に見取ることができます。

直山 木綿子 監修「小学校外国語教育の指導と評価」p.48, 49を基に作成



各観点における[評価方法]は次のとおりです。
 「知識・技能」・・・行動観察、ワークシート、パフォーマンステスト など
 「思考・判断・表現」・・・行動観察、ワークシート、振り返りシート、パフォーマンステストなど
 「主体的に学習に取り組む態度」・・・行動観察、振り返りシート など

4 学習評価の機能

○指導に生かす評価

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと
 ※児童の学習改善や教師の指導改善のために、日々の授業の中で児童の学習状況を絶えず評価することが大切です。毎時間児童の学習状況を見取り、[指導に生かす評価]を行いましょう。

○記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと
 ※毎回の授業において、[記録に残す評価]を行う必要はありません。授業の中心に据えた言語活動や単元末、学期末のパフォーマンステストなどにおいて行います。

5 単元における学習評価の場面

時	目標・活動O口	評価
		知 識 思 考 表 現 態 度 評価標準(評価方法)
1	◆人物の紹介を聞き、その人の性格や特徴や単元ゴールの活動への見通しをもつこと ○Sound ChantをAからDまで言う。 [Let's Listen] ・教師による人物紹介を聞き、その人物の特徴を推測する。 [Let's Watch & Think] ・単元ゴールの活動のモデルとなる映像資料を観視し、具体的な情報を聞き取る。 ○単元ゴールの活動への見通しをもつ。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
3	◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わりを伝えよう。 ○Sound ChantをAからDまで言う。 [Let's Listen] ・挿絵を見ながら音声による会話を聞き、紹介している人を選択肢から選ぶ。 [Let's Play] ・ある人物になったつもりで家族を紹介する。友達が誰になりかけているのかを当てる。 [Let's Talk] ・自分の身近な人の名前や自分との関わりを伝え合う。 [Let's Read & Write] ・相手に伝えたことについて、例文を参考に文の一部を書く。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
4	◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の性格や特徴などを伝えよう。 ○Sound ChantをAからDまで言う。 ○Small Talk: 家族や友達 [Let's Listen] ・音声による会話を聞いて、登場人物が紹介した人とその人の性格や特徴を線で結ぶ。 [Let's Play] ・ポイントインゲーム: 性格や特徴を表す単語を聞いて指さす。さらに、HeやSheを用いて説明して言う。 [Let's Talk] ・自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、伝え合う。 [Let's Read & Write] ・相手に伝えた自分の身近な人の性格や特徴などについて、例文を参考に書く。	・自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える意図や働きを理解している。 ・自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。 (行動観察・ワークシート記述分析) ・「話すこと [やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。 ・相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 (行動観察・ワークシート記述分析)
5	◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人について伝え合い、伝えたいことを書くことができる。 ○Sound ChantをAからDまで言う。 [Let's Talk] ・自分の身近な人について伝え合う。 ○自分の身近な人について伝え合う会話を聞き、具体的な内容を聞き取るとともに、伝え合うときの工夫について考える。 [Let's Read & Write] ・伝えたことについて例文を参考に書く。 ○単元の学習を振り返る。	・「話すこと [やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。 ・相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 (行動観察・ワークシート記述分析) ・自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身に付けている。 (行動観察・ワークシート記述分析)

・単元の前半では、[記録に残す評価]は行いませんが、毎時間のねらいに即して児童の学習状況を把握し、[指導に生かす評価]を行います。

・単元末に児童全員の総括的評価が「おおむね満足できる」状況(b)になることを目指して[指導に生かす評価]を行います。

・授業の中心に据えた言語活動において、適宜、[記録に残す評価]を行います。

・単元を通して指導してきたことを単元末や学期末にパフォーマンステストなどで[記録に残す評価]を行います。

・その際、指導の重点をおいた領域で評価を行います。



学習評価の詳細については、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」を御参照ください。



学習指導プラン

小学校外国語科第5学年

単元名 身近な人について伝え合おう

内容のまとめり

〔第5学年及び第6学年〕

「話すこと [やり取り]」「書くこと」

1 本単元に関係する領域別目標

「話すこと [やり取り]」

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

「書くこと」

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

2 単元の目標

相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。また、伝えたことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<p><知識> 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。</p> <p><技能> 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。
書くこと	<p><知識> 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。</p> <p><技能> 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身に付けている。</p>	本単元の評価規準は、「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。」となるが、次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。	本単元の評価規準は、「相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。」となるが、次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。

4 指導と評価の計画（全5時間）

時	目標◆・活動○【】	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準〈評価方法〉
1	◆人物の紹介を聞き、その人の性格や特徴などについて具体的な情報を聞き取ることができる。 単元ゴールの活動への見通しをもつことができる。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
	○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ・教師による人物紹介を聞き、その人物が誰かを推測する。 【Let's Watch & Think】 ・単元ゴールの活動のモデルとなる映像資料を視聴し、具体的な情報を聞き取る。 ○単元ゴールの活動への見通しをもつ。				
2	◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、人物を紹介するときの英語表現や家族の言い方を知り、伝え合うことができる。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
	○Sound Chant を A から D まで言う。 ○Small Talk：好きな動物 【Let's Listen】 ・挿絵を見ながら、音声による登場人物やその家族についての紹介を聞き、人物を紹介するときの英語表現や家族の言い方を知る。 ○Word Chant：家族 【Let's Listen】 ・登場人物が誰を紹介しているか聞いて、その人物を挿絵から選ぶ。 【Let's Speak】 ・登場人物になったつもりで、挿絵を見ながらほかの人物を紹介する。				
3	◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わりを伝え合うことができる。				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
	○Sound Chant を A から D まで言う。 【Let's Listen】 ・挿絵を見ながら音声による会話を聞き、紹介している人を選択肢から選ぶ。 【Let's Play】 ・ある人物になったつもりで家族を紹介する。友達が誰になりきっているのかを当てる。 【Let's Talk】 ・自分の身近な人の名前や自分との関わりを伝え合う。 【Let's Read & Write】 ・相手に伝えたことについて、例文を参考に文の一部を書く。				

<p>4 (本時)</p>	<p>◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の性格や特徴などを伝え合うことができる。</p> <p>○Sound Chant を A から D まで言う。</p> <p>○Small Talk : 家族や友達</p> <p>【Let's Listen】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声による会話を聞いて、登場人物が紹介した人とその人の性格や特徴を線で結ぶ。 <p>【Let's Play】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポインティングゲーム：性格や特徴を表す単語を聞いて指さす。さらに、He や She を付けて文章にして言う。 <p>【Let's Talk】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、伝え合う。 <p>【Let's Read & Write】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えた自分の身近な人の性格や特徴などについて、例文を参考に書く。 	<p>や</p>	<p>*や</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。 <p>〈行動観察・ワークシート記述分析〉</p> <p>* 「話すこと [やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉
<p>本時では、「書くこと」については、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>				
<p>5</p>	<p>◆相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人について伝え合い、伝えたことを書くことができる。</p> <p>○Sound Chant を A から D まで言う。</p> <p>【Let's Talk】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身近な人について伝え合う。 <p>○自分の身近な人について伝え合う会話を聞き、具体的な内容を聞き取るとともに、伝え合うときの工夫について考える。</p> <p>【Let's Read & Write】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたことについて例文を参考に書く。 ○単元の学習を振り返る。 	<p>書</p>	<p>や</p> <p>や</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「話すこと [やり取り]」の思考・判断・表現の評価は、第5時と合わせて行う。 相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身に付けている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉

※**や**は「話すこと [やり取り]」、**書**は「書くこと」の領域を示している。

5 本時の展開（4 / 5）

(1) 本時の目標

相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の性格や特徴などを伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉 ●指導改善例	準備物
1 Sound Chant を A から D まで言う。 2 本時のめあてを確認する。	・ Sound Chant を言うことで、文字と音の一致を促す。	チャンツ音源
相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の性格や特徴を伝え合おう。		
3 【Small Talk】 ・ 教師の家族や友達についての話を聞く。	・ 既習の語句や表現を用いて、家族や友達を紹介することで、児童がそれらを繰り返し聞くことができるようにする。 ・ 児童が性格や特徴などを表す語句に慣れ親しむことができるように、それらの語句を繰り返す。また、ジェスチャーを活用することで児童が語句の意味を理解できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 教師の話の例 （イラストを見せて）Who is this? This is ○○. She is my sister. She is friendly. </div>	イラスト
4 【Let's Listen】 ・ 音声による会話を聞いて、登場人物が紹介した人とその人の性格や特徴を線で結ぶ。	・ 音声による会話を聞く前に、何を聞き取ればよいのかを明らかにし、児童が目的意識をもって聞くことができるようにする。	教科書 絵カード
5 【Let's Play】 ・ ポインティングゲームをする。性格や特徴を表す単語を聞いて指さす。さらに、He や She を付けて文章にして言う。	・ 児童が語句を聞き取ることができるように、ゆっくりはっきりと発音する。 ・ He や She を付けて文章にすることで、文発話につなげるとともに、三人称を表す語句について確実に理解することができるようにする。	絵辞書
6 【Let's Talk】 ・ 自分の身近な人の名前や自分との関わり、性格や特徴について、伝え合う。	・ 児童全員が言語活動に取り組むことができるようにするため、誰について伝えるのか確認する。 ・ 反応しながら聞いている児童を称賛し、よい聞き方として全体で共有する。 ● 伝えたくても英語で表現できなかったことはなかったか問い掛け、一緒に表現を考えたり、必要に応じて練習をしたりする。 ● 相手に自分の身近な人のことを知ってもらうという目的を確認し、“Who is this?”と尋ねて発話を引き出したたり、その発話に応じて、正しい表現を何度も繰り返し、児童が何度も英語表現を聞くことができるようにする。 ◎ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、伝え合う技能を身に付けている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉	絵カード

<p>やり取りの例 A : Hello. B : Hello. A : Who is this? B : This is ○○. He is my father. He is active. A : Nice! B : Thank you. ※この後はBがAに尋ね、Aが自分の身近な人について伝える。</p>	<p>◎相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。（行動観察・ワークシート記述分析）</p>	
<p>7 【Let's Read & Write】 ・相手に伝えた性格や特徴について、例文を参考に書く。</p>	<p>・例文を参考に、例文の一部を自分が伝えた語に替えて、書くよう伝える。 ・実際に板書し、語と語の区切りに注意して書き写すことができるようにする。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>8 本時の活動を振り返る。</p>	<p>・本時にできるようになったことや、どのようにしたらできるようになったのかなど学び方にも着目して振り返るよう促す。</p>	<p>ワークシート</p>

6 本時の評価規準と判定基準

本時の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
<p>○ 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解している。 自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。 【行動観察・ワークシート記述分析】</p>	<p>「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント ・自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解し、簡単な語句や基本的な表現をおおむね正しく用いて、伝え合っている。 「十分満足できる」状況（A）の例 ・自分の身近な人に関して、自分との関わり、その人の性格や特徴などを伝える語句や表現の意味や働きを理解し、簡単な語句や基本的な表現を正しく用いて、言いよどむことなく伝え合っている。 「努力を要する」状況（C）と判断される児童生徒への指導と手立て等 ・伝えたくても英語で表現できなかったことはなかったか問い掛け、一緒に表現を考えたり、必要に応じて練習したりする。</p>
<p>○ 相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 【行動観察・ワークシート記述分析】</p>	<p>「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント ・相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 「十分満足できる」状況（A）の例 ・相手に自分の身近な人のことを知ってもらうために、その人の名前や自分との関わり、性格や特徴などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて相手によく分かるように情報を加えたり、相手に質問をしたり答えたり、感想を言ったりして伝え合っている。 「努力を要する」状況（C）と判断される児童生徒への指導と手立て等 ・相手に自分の身近な人のことを知ってもらうという目的を確認し、“Who is this?”と尋ねて発話を引き出したり、その発話に応じて、正しい表現を何度も繰り返し、児童が何度も英語表現を聞くことができるようにする。</p>